神戸新聞 2020年02月12日 水曜日 面名 くらし １３ 16ページ

▲ツヤアオカメムシ

▲クサギカメムシ
（いずれも兵庫医科大学　夏秋優准教授提供）

越冬で室内潜伏 ▶▶

カメムシ 冬も注意

分泌物、皮膚炎の原因にも

晩秋から初冬にかけて、よく屋外で衣服にくっついたり、洗濯物に潜り込んだりするカメムシ。実は、冬場も越冬のために室内に潜り込み、服やくつの中で息を潜めていることがあるという。兵庫医科大学の夏秋優（なつあきまさる）准教授（皮膚科学）は「カメムシの分泌物は、臭いが強烈なだけでなく、痛みを伴う皮膚炎を引き起こすこともあり、注意が必要」と指摘する。

カメムシは外敵から身を守るため、脚の付け根にある「臭腺」から臭いを分泌する。これに含まれる「アルデヒド類」と呼ばれる成分は、少し付着するだけなら臭いだけで済むが、高い濃度で付着すると皮膚炎になることがある。

特に冬場は、家の納戸など温度変化の少ない場所に潜んでいることがあり、気付かずに触れてしまったり、掃除中に踏みつけたりするケースがあるという。

夏秋准教授によると、濃度の高い分泌物を浴びると、その部分の皮膚に色素が沈着してしばらく痕が残ることもある。「足の裏に突然ほくろができた」と言って受診する人もいるという。

分泌物が付着したときは、「すぐに石けんなどで洗い流してほしい」と夏秋准教授。ただ不意をつかれるケースが多くすぐに対応できるとは限らない。

一番の対策は、室内や衣服、くつの中に「カメムシが隠れていないかを確認すること」という。もし「見つけても無理に追い払わず、距離を取って逃がしてやってほしい」と話している。（秋山亮太）

夏秋優准教授（兵庫医科大学提供）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① 夏秋准教授はカメムシの分泌物には注意が必要と指摘していますが、それはどうしてですか。

② カメムシは体のどこからにおいを分泌しますか。

漢字の読みか
皮膚＝ひふ
分泌＝ぶんぴ

③ 夏秋准教授は濃度の高い分泌物を浴びると、その部分の皮膚はどうなると言っていますか。

④ 分泌物が付着したらどうしてほしいと夏秋准教授は言っていますか。

名前【　　】